

〔TPN 水和剤（フロアブル）〕

ダコニール1000

有効成分：TPN（化管法1種）…………… 40.0%

性 状	： 類白色水和性粘稠懸濁液体
毒 性	： -
危 険 物	： -
有効年限	： 5年
包 装	： 250ml×40本 500ml×20本

ダコニール・ダコニール 1000 は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

〔特長〕

- 70種類を超える作物に登録がある。
汎用性が高く、多くの作物に対して薬害の心配が少ない。
- およそ180種類の病害に登録がある。
有効成分のTPNは、病原菌のエネルギー代謝系の種々のSH酵素の機能を阻害する。その殺菌活性スペクトラムは広範であり、効率的な病害の同時防除が可能である。
- 優れた予防効果を示す。
有効成分のTPNは、各種植物病原菌の孢子発芽と孢子形成を強く阻止することにより、優れた予防効果を示す。
- 耐性菌が問題となった事例がない。
ダコニール1000は、他系統の薬剤耐性菌の発達により難防除となっている病害（トマト葉かび病・すすかび病、キュウリ褐斑病など）にも優れた予防効果を発揮する。
- 残効性と耐雨性に優れ、汚れも少ない。
- ミツバチ等の有用昆虫や天敵への影響が少ない。
- IPM（総合的病害虫管理）にも活用できる。
汎用性に優れ、有用昆虫や天敵に対して影響が少なく、薬剤耐性菌の発現リスクの低いダコニール1000は、IPMに貢献すると考えられる。

〔適用病害と使用方法〕

1. 散布剤として使用する場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
きゅうり	べと病、炭疽病、 うどんこ病、褐斑病、 灰色かび病、黒星病	1000	100～ 300ℓ ／10a	前日	12回	散布	14回 (土壌灌注:2回、 散布、常溫煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射: 合計12回)
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 斑点病、つる枯病				4回		4回
ズッキーニ	うどんこ病				3回		3回
ごぼう					5回		5回
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病				4回		4回
うり類(漬物用、 但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、 うどんこ病、つる枯病			7日	3回		
かぼちゃ	べと病、白斑病、うどんこ病	700		3日	5回	5回	
すいか	炭疽病						
メロン	つる枯病	700～ 1000					
	べと病	700					
	うどんこ病	1000					

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
トマト	疫病、輪紋病、炭疽病、 葉かび病、すすかび病、 灰色かび病、うどんこ病、 褐色輪紋病、斑点病	1000	100～ 300ℓ /10a	前日	4回	散布	6回 (土壌灌注:2回、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアフル剤の噴射: 合計4回)
ミニトマト					2回		2回
オクラ	葉すす病				5回		5回
なす	黒枯病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病				4回		4回
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病			3回	3回		
はくさい	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病			7日	3回(は種又は定植前の 土壌混和:1回、 散布及び無人航空機 散布:合計2回)		
キャベツ	べと病、根朽病			14日	2回(は種又は定植前の 土壌混和:1回、 散布、無人航空機散布 及びエアフル剤の噴射: 合計2回)		
非結球はくさい	白斑病			28日	2回		
ブロッコリー	べと病			出蕾前 但し、21日	3回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機 散布:合計2回)		
カリフラワー				出蕾前 但し、14日	3回		
なばな類 (なばなを除く)	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病			60日			
なばな	出蕾前 但し、21日						
だいこん	ワッカ症、白さび病、 白斑病、炭疽病			45日	3回		
レタス	灰色かび病			14日	5回 (土壌灌注:2回、 散布及び無人航空機 散布:合計3回)		
非結球レタス	べと病、すす枯病	21日	2回				
たまねぎ	べと病、灰色かび病、 白色疫病	7日	6回				
ねぎ	黒斑病、べと病、 小菌核腐敗病、 葉枯病、さび病	14日	3回 (土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機 散布:合計3回)				
わけぎ		2回					
にんにく	葉枯病、黄斑病、 白斑葉枯病、さび病	7日	6回				
らっきょう	灰色かび病	14日	3回				
アスパラガス	茎枯病、斑点病、 褐斑病、疫病	100～ 400ℓ /10a	前日	4回			
しょうが	白星病	16	3.2ℓ /10a	14日	5回	無人 航空機 による 散布	5回
	紋枯病、白星病	1000				100～ 300ℓ /10a	

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数		
ばれいしょ	疫病	500~ 1000	100~ 300ℓ /10a	7日	5回	散布	5回		
	夏疫病	1000							
	疫病、夏疫病	8	1.6ℓ /10a			無人 航空機 による 散布			
		16	3.2ℓ /10a						
やまのいも	炭疽病、葉渋病、 つる枯病	1000	100~ 300ℓ /10a	30日	6回		6回		
やまのいも (むかご)				45日					
もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症			30日	3回		3回		
茶	炭疽病、もち病、 輪斑病、新梢枯死症 (輪斑病菌による)	700~ 1000	200~ 400ℓ /10a	10日	1回	散布	1回		
	網もち病、褐色円星病	1000							
	黒葉腐病、灰色かび病	700							
セルリー	斑点病、萎縮炭疽病	1000	100~ 300ℓ /10a	21日	2回		2回		
にんじん	黒葉枯病	8	1.6ℓ /10a	7日	5回	無人 航空機 による 散布	5回(種子への吹き 付け処理:1回)		
		16	3.2ℓ /10a						
みつば	べと病			根株養成期 但し、75日	3回		3回		
しゃくやく (薬用)	うどんこ病	1000		45日	15回 (1年間に 3回)		15回 (1年間に3回)		
せんぶり	さび病			7日	12回 (1年間に 6回)		12回 (1年間に6回)		
みしまさいこ	炭疽病	800	100~ 300ℓ /10a	30日	3回	散布	3回		
あしたば	黒枯病	1000							
らっかせい	褐斑病	500		14日	4回		4回		
				30日					
食用ぎく	葉枯病			14日	6回		6回		
ふき	灰色かび病			21日	2回		2回		
てんさい	褐斑病			30日			3回		
うど	黒斑病				根株養成期 但し、200日		3回	4回(散布:3回、 根株瞬間浸漬:1回)	
しそ	斑点病(株枯症)	1000		150ℓ /10a	前日		4回	株元散布	4回
りんご	斑点落葉病、 モニリア病、黒星病			200~ 700ℓ /10a	45日		3回	散布	3回
なし	黒斑病、黒星病	3回							
もも	灰星病、黒星病	6回							
ネクタリン		2回							
いちじく	疫病、黒葉枯病、 黒かび病、さび病	2000		前日	2回		2回		

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数			
みょうが (花穂)	葉枯病、紋枯病	1000	100~ 300ℓ /10a	14日	4回	散布	4回			
みょうが (莖葉)				みょうが (花穂)の収穫 14日前まで 但し、花穂を 収穫しない 場合は開花期 終了まで						
キウイフルーツ	果実軟腐病	500~1000		60日	7回			7回		
	すす斑病	500								
パパイヤ	炭疽病	1000	200~ 700ℓ /10a	前日	5回			5回		
マルメロ	ごま色斑点病			30日	4回			4回		
かりん	黒点病、ごま色斑点病、 白かび斑点病			45日	3回			3回		
パッションフルーツ	円斑病、疫病			14日						
たばこ	うどんこ病	700~1000	25~ 150ℓ /10a	10日	2回			2回		
ばら	黒星病、うどんこ病、 斑点病	1000	100~ 300ℓ /10a	発病前~ 発病初期	6回			無人 航空機 による 散布	6回	
きく	黒斑病、褐斑病、 白さび病、うどんこ病、 斑点病									
チューリップ	褐色斑点病	10~30	3ℓ /10a							
ゆり	葉枯病、斑点病	1000	100~ 300ℓ /10a							
りんどう	葉枯病、褐斑病									
花き類・観葉植物 (ばら、きく、 チューリップ、 ゆり、りんどうを除く)	うどんこ病、斑点病									
しきみ	炭疽病					200~ 700ℓ /10a				
つつじ類	褐斑病									
西洋芝 (ベントグラス) 西洋芝 (パーミューダグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病、 葉腐病(ブラウンパッチ)	500~750	1ℓ /㎡			発病初期	8回			8回

2. 土壌灌注剤として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾプス菌)	500~ 1000	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000~ 2000	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リソクトニア菌)	1000	3ℓ / ㎡	は種時又は 活着後 但し定植 14日後まで			14回 (土壌灌注:2回、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射: 合計12回)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用用量	使用時期	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
トマト	苗立枯病 (リソクトニア菌)	1000	3ℓ / m ²	は種時又は 活着後 但し定植 14日後まで	2回	土壌灌注	6回 (土壌灌注:2回、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射: 合計4回)
レタス	ビッグベイン病		1.5~3ℓ / m ²	収穫42日前 まで			5回 (土壌灌注:2回、 散布及び無人航空機 散布:合計3回)
ブロッコリー	根こぶ病	3ℓ / m ²	定植時	1回	3回 (土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機 散布:合計2回)		
みずな	立枯病		は種時		1回		
ねぎ	苗立枯病 (リソクトニア菌)	500	0.5ℓ / m ²		出芽揃い後 (出芽3日後か ら10日後まで)		4回 (土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機 散布:合計3回)
わけぎ				セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用 土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ		3回(土壌灌注:1回、 散布:2回)	

3. 常温煙霧として使う場合

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 用量	使用 時期*	本剤の* 使用回数	使用 方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
きゅうり	温室、ガラス 室、ビニール ハウス等密閉 できる場所	べと病	33	10ℓ /10a	前日	4回	常温煙霧	14回 (土壌灌注:2回、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射: 合計12回)
トマト		すすかび病、 葉かび病、 褐色輪紋病、 うどんこ病						6回 (土壌灌注:2回、 散布、常温煙霧、くん煙 及びエアゾル剤の噴射: 合計4回)
なす		うどんこ病	4回					4回
ピーマン			50					3回
アスパラガス		斑点病、 褐斑病	40					4回

4. 種子消毒剤として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用用量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg 当り60mℓ	は種前	1回	吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回 (種子への吹き付け 処理:1回)

* 収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

表中「-」は、使用時期の制限がないことを示す。

効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤とは混用はさける。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守る。
 - ①散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
 - ②散布にあつては、散布機種種に適合した散布装置を使用する。
 - ③散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行う。
 - ④散布薬液の飛散によって動植物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。
 - ⑤散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄する。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加える。
- 稲(箱育苗)に使用する場合、次の事項に注意する。
 - 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。
 - 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意する。
- りんごに使用する場合、ゴールデンの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には、葉に薬害を生じるので使用しない。また、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花後20日間は散布しない。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じるので使用しない。また、二十世紀であっても7月以前に使用すると葉に薬害を生じるので7月以降に使用する。
- 有袋栽培のものに使用する場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさける。
- いちじくに使用する場合、果実に薬害が生じるおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさける。
- ねぎ及びわけぎに土壤灌注として使う場合、は種時から出芽直後の処理においては生育抑制のおそれがあるので注意する。
- レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注はさける。
- しそに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、葉にかからないように株元に散布する。
- 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意する。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
 - 煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、煙霧が作物体に直接当たらないようにする。
 - 作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉する。
- 花き類・観葉植物に使用する場合、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布はさける。ただし、球根生産(チューリップ)の場合は、問題なく使用できる。
- みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用する。また、使用後14日間は入水しない。
- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に薬害(黄変または褐変)を生じることがあるので注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。



- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。



- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにする。

- 夏期高温時の使用をさける。
- 街路・公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らない。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。



- 魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意する。養殖池周辺での使用はさける。本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。

水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。

無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。

使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管]：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

化管法に対応するその他の注意事項は別表の分類3に表示してある。

農業登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（16823）、クミアイ化学工業（16824）、住友化学（21759）

販売：クミアイ化学工業、住友化学